

令和5年度 学校評価アンケート結果と考察

葛城市立白鳳中学校

- ◎ 調査時期 生徒：令和4年12月8日（金）
教職員：令和4年12月6日（水）～13日（水）
保護者：令和4年12月6日（水）～13日（水）
- ◎ 調査方法 全てインターネット回答（GoogleFoamを使用）
- ◎ 調査人数 生徒462名（回答412名）
保護者回答299名
教職員回答35名
- ◎ 質問項目 ①学校運営・安全指導について3項目
②学習活動について8項目
③学校生活・規範意識について10項目
④人権教育等について5項目



令和5年度 学校評価アンケート結果

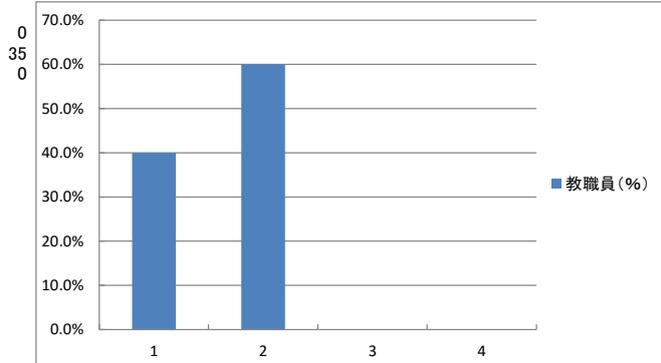
葛城市立 白鳳中学校

1=思う 2=やや思う 3=あまり思わない 4=思わない

① (教職員1) 充実した学校生活を送っているか。

回答	1	2	3	4
生徒人数				
教職員人数	14	21	0	0
保護者人数				
生徒(%)				
教職員(%)	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度		96.8%	
令和4年度		97.1%	
令和5年度		100.0%	

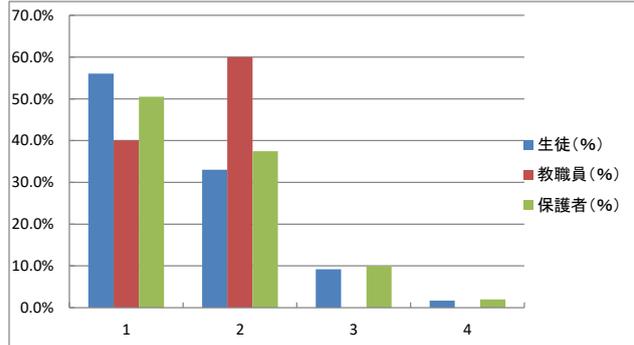


昨年度とほとんど変わらない結果で、全員が肯定的にとらえている。この数字は、学習面だけでなく、様々な分野での我々の取組に対する自己評価と考えられるが、以下の質問の生徒と保護者の結果を分析して、今後の計画に反映させていかなければならない。

② (生徒2)
(教職員2) 楽しく学校生活を送っているか。
(保護者2)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	231	136	38	7	412
教職員人数	14	21	0	0	35
保護者人数	151	112	30	6	299
生徒(%)	56.1%	33.0%	9.2%	1.7%	
教職員(%)	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	
保護者(%)	50.5%	37.5%	10.0%	2.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	81.7%	83.9%	82.9%
令和4年度	82.5%	76.5%	82.9%
令和5年度	89.1%	100.0%	88.0%

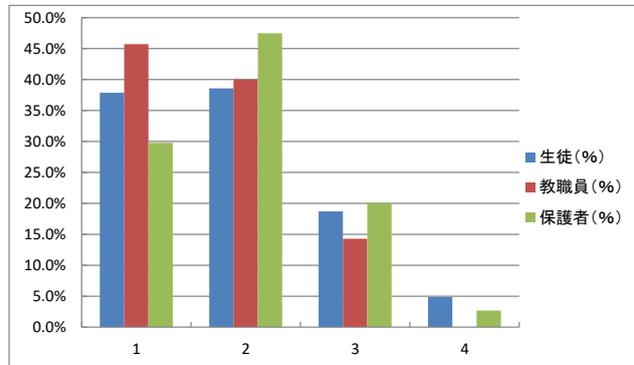


全ての回答において、肯定的回答率が昨年より上がっているのは今年の取り組みの成果である。ただし、保護者と生徒の一定数の否定的回答を掘り下げて、よりよい学校生活になるように更なる改善を図る必要がある。

③ (生徒3)
(教職員3) 学級や学校での様子を便りなどを使って、積極的に家庭に知らせているか。
(保護者3)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	156	159	77	20	412
教職員人数	16	14	5	0	35
保護者人数	89	142	60	8	299
生徒(%)	37.9%	38.6%	18.7%	4.9%	
教職員(%)	45.7%	40.0%	14.3%	0.0%	
保護者(%)	29.8%	47.5%	20.1%	2.7%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	78.0%	92.3%	76.2%
令和4年度	77.9%	91.2%	76.2%
令和5年度	76.5%	85.7%	77.3%

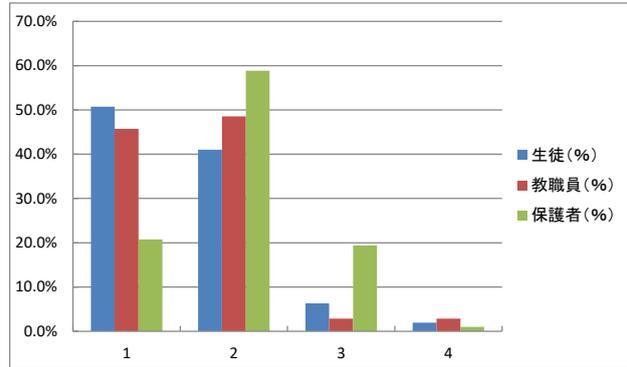


生徒・教職員の肯定的な回答率が下がっていて、保護者の肯定的な回答率が上がっているのは、tetoruの影響であると思われる。また、HPのアップ回数も今年は増やしたので今後も継続していく必要がある。教職員に対するtetoruの内容確認の徹底は必要である。生徒に対しては紙媒体での配布が減ったので、tetoruの内容をどう周知するかは今後の課題である。

- ④ (生徒4) 安全な学校だと思うか。
(教職員4) 安全な学校だと思うか。
(保護者4)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	209	169	26	8	412
教職員人数	16	17	1	1	35
保護者人数	62	176	58	3	299
生徒(%)	50.7%	41.0%	6.3%	1.9%	
教職員(%)	45.7%	48.6%	2.9%	2.9%	
保護者(%)	20.7%	58.9%	19.4%	1.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	89.3%	93.5%	77.1%
令和4年度	87.8%	58.8%	77.1%
令和5年度	91.7%	94.3%	79.6%

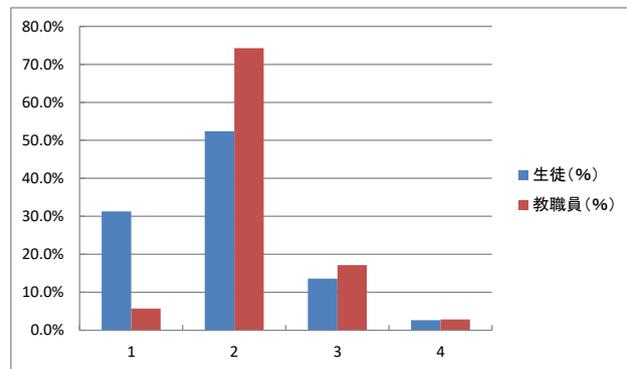


全体的な肯定的回答率は上がっているのですが、各取り組みの成果である。しかし、保護者の2割が否定的な回答している点が課題である。情報を収集して、安全性を高めるには何が必要かを検討しなければならない。

- ⑤ (生徒5) 授業の内容をよく理解していると思うか。
(教職員5)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	129	216	56	11	412
教職員人数	2	26	6	1	35
保護者人数					0
生徒(%)	31.3%	52.4%	13.6%	2.7%	
教職員(%)	5.7%	74.3%	17.1%	2.9%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	81.9%	93.5%	
令和4年度	81.1%	91.2%	
令和5年度	83.7%	80.0%	

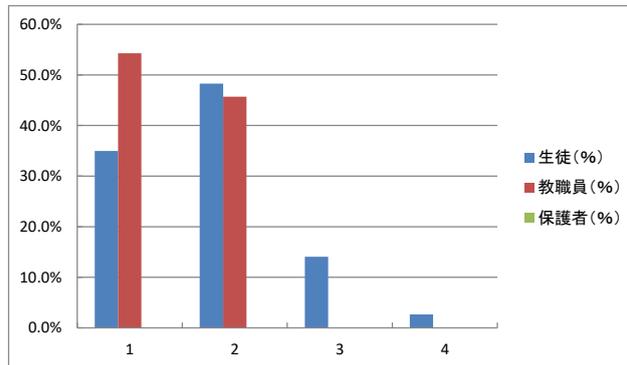


生徒は肯定的な回答が増加しているが、教職員の肯定的意見が減少している。これは電子黒板が定着して、ICTを利用した授業改革が進み、生徒には授業がわかりやすい内容になったが、教職員は過去の経験から理解度が下がっていると感じていると考えられる。また、否定的意見の生徒の意見を各授業の中で授業評価等を利用して、教職員が吸い上げる必要がある。

- ⑥ (生徒6) 授業の中で、目標(めあて、ねらい)が示されているか。
(教職員6)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	144	199	58	11	412
教職員人数	19	16	0	0	35
保護者人数					
生徒(%)	35.0%	48.3%	14.1%	2.7%	
教職員(%)	54.3%	45.7%	0.0%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	73.3%	93.5%	
令和4年度	77.4%	88.2%	
令和5年度	83.3%	100.0%	

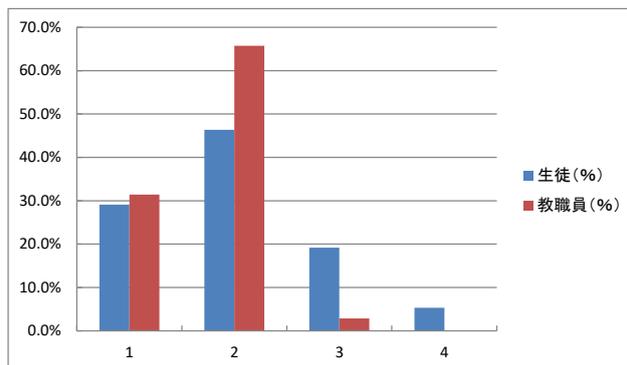


教職員は肯定的な回答が100%であるが、生徒は低い割合になっている。生徒の肯定的な回答は年々上昇しているが、提示していることを分かっていない(理解していない)生徒が多いと考えられるので、授業内での提示の必要がある。

- ⑦ (生徒7) 授業の最後に学習の振り返りの活動があるか。
(教職員7)

回答	1	2	3	4
生徒人数	120	191	79	22
教職員人数	11	23	1	0
保護者人数				
生徒(%)	29.1%	46.4%	19.2%	5.3%
教職員(%)	31.4%	65.7%	2.9%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	72.1%	80.6%	
令和4年度	68.4%	88.2%	
令和5年度	75.5%	97.1%	

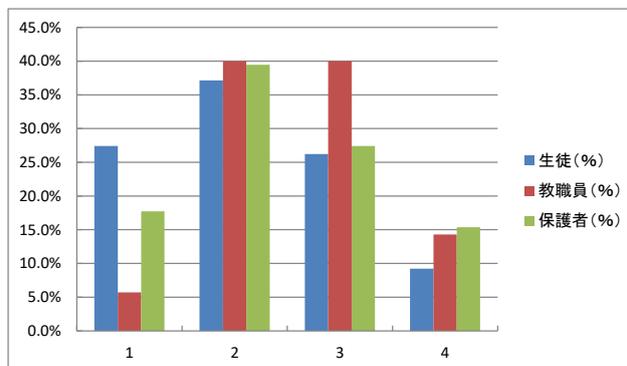


前質問と同様、生徒の肯定的回答率が低い、教職員はほぼ全員肯定的回答をしているので、授業の振り返りの方法を工夫する必要がある。また、授業中の時間配分を考え直すことで、振り返りの時間を十分確保する必要がある。

- ⑧ (生徒8)
(教職員8) 家庭で、自分から進んで学校の課題や予習などの学習をしているか。
(保護者7)

回答	1	2	3	4
生徒人数	113	153	108	38
教職員人数	2	14	14	5
保護者人数	53	118	82	46
生徒(%)	27.4%	37.1%	26.2%	9.2%
教職員(%)	5.7%	40.0%	40.0%	14.3%
保護者(%)	17.7%	39.5%	27.4%	15.4%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	56.0%	38.7%	68.4%
令和4年度	59.2%	44.1%	65.7%
令和5年度	64.6%	45.7%	57.2%

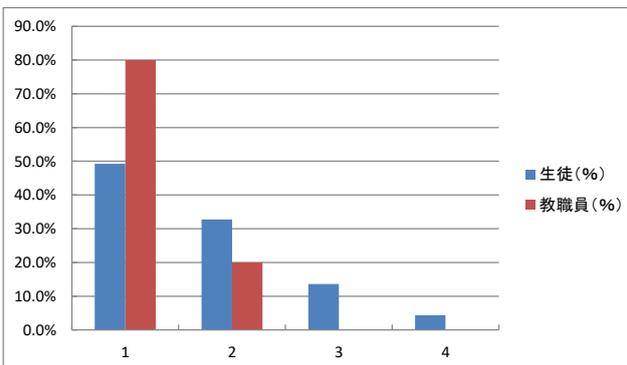


生徒と教職員の肯定的回答率は上昇しているが、保護者は否定的回答率が年々上昇している。また、全体的に生徒・保護者と教職員の回答内容が逆転しているため、家庭での学習状況を確認する方法を検討する必要がある。

- ⑨ (生徒9)
(教職員9) 先生から公平公正に評価されているか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	203	135	56	18
教職員人数	28	7	0	0
保護者人数				
生徒(%)	49.3%	32.8%	13.6%	4.4%
教職員(%)	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	83.0%	96.8%	
令和4年度	77.4%	94.1%	
令和5年度	82.0%	100.0%	

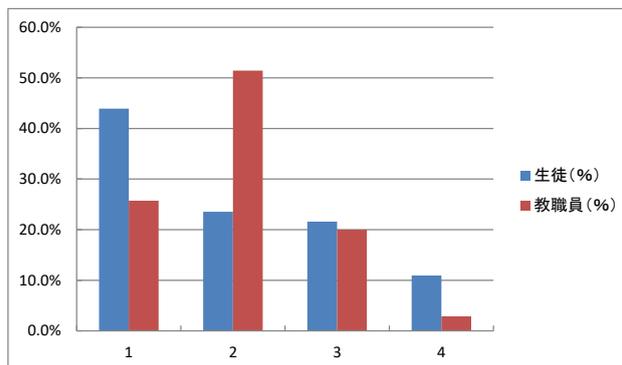


約2割の否定的回答の生徒があるので、年度当初に各教科からシラバス等を利用した学習計画と評価基準の説明と、評価に対する説明責任を再度確認する必要がある。教師が否定的回答をする事はないので設問に教職員を入れるかどうかは来年度の検討事項である。また、教職員の2割が回答(2-ややそう思う)としているのが課題である。

- ⑩ (生徒10) 朝読書の時間を有効に使い、読みたい本を読んでいるか。
(教職員10)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	181	97	89	45	412
教職員人数	9	18	7	1	35
保護者人数					0
生徒(%)	43.9%	23.5%	21.6%	10.9%	
教職員(%)	25.7%	51.4%	20.0%	2.9%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	69.3%	77.4%	
令和4年度	69.2%	58.8%	
令和5年度	67.5%	77.1%	

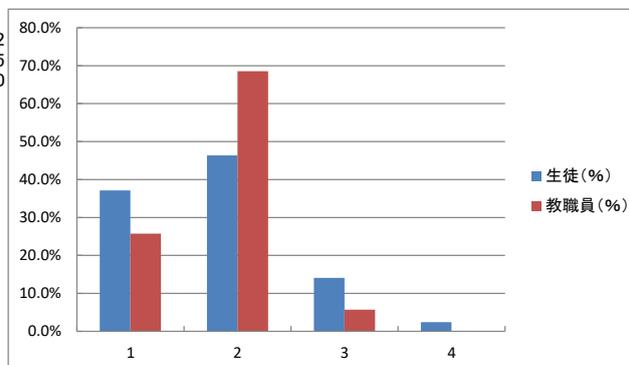


回答(4-思わない)の生徒と教職員の回答率の差が大きいため、教職員が読んでいない生徒に対する声かけが必要である。また、来年度は朝読書の時間は読書が中心だが、朝学習やタイピング練習を一部利用することが可能になる。メリハリをつけた時間とすることによる効果を来年度は検証する。

- ⑪ (生徒11) 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいるか。
(教職員11)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	153	191	58	10	412
教職員人数	9	24	2	0	35
保護者人数					0
生徒(%)	37.1%	46.4%	14.1%	2.4%	
教職員(%)	25.7%	68.6%	5.7%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	83.9%	87.1%	
令和4年度	57.2%	76.5%	
令和5年度	83.5%	94.3%	

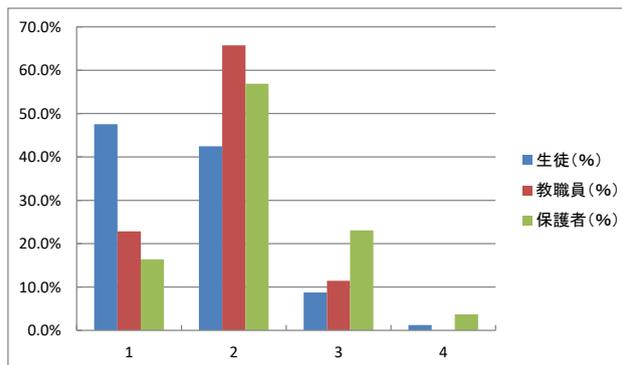


昨年度は回答(4-思わない)を選んだ生徒が3割以上いたが、今年度は大幅に改善した。これはコロナ禍で出来なかった様々な体験活動が出来るようになった成果と思われる。来年度も行事を精選しつつも充実した体験活動を計画していくべきである。

- ⑫ (生徒12) 生徒が授業に参加できるように学び合い場を設定するなど授業づくりの工夫をしているか。
(教職員12)
(保護者6) 先生は、生徒の学力を伸ばすために授業の研究に努めていると思うか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	196	175	36	5	412
教職員人数	8	23	4	0	35
保護者人数	49	170	69	11	299
生徒(%)	47.6%	42.5%	8.7%	1.2%	
教職員(%)	22.9%	65.7%	11.4%	0.0%	
保護者(%)	16.4%	56.9%	23.1%	3.7%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	82.8%	87.1%	66.1%
令和4年度	81.3%	82.4%	75.2%
令和5年度	90.0%	88.6%	73.2%

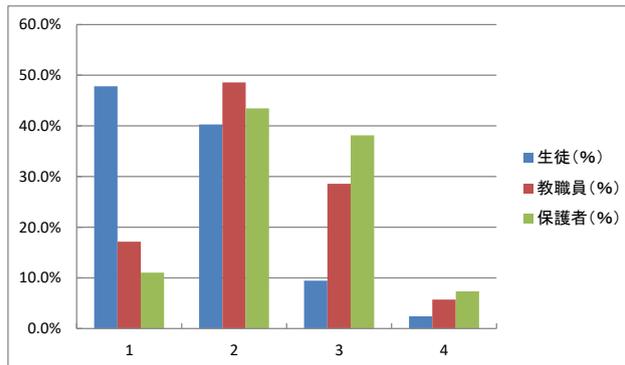


生徒の肯定的回答が教職員の回答率を超えている。設問⑪同様、昨年までの研究とコロナ禍で出来なかった対話的で深い学びや協働作業が出来るようになった成果と思われる。引き続き学び合いの学習を進めて行くべきであるが、保護者の否定的回答が約3割あるので、保護者に対して学び合いの内容や成果を伝える事が課題である。

- ⑬ (生徒13)
(教職員13) あいさつをよくしているか。
(保護者7)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	197	166	39	10	412
教職員人数	6	17	10	2	35
保護者人数	33	130	114	22	299
生徒(%)	47.8%	40.3%	9.5%	2.4%	
教職員(%)	17.1%	48.6%	28.6%	5.7%	
保護者(%)	11.0%	43.5%	38.1%	7.4%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	83.9%	76.9%	50.6%
令和4年度	85.9%	67.6%	54.3%
令和5年度	88.1%	65.7%	54.5%

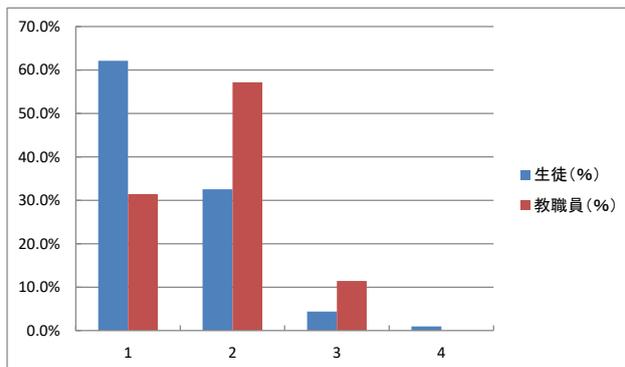


昨年の校長先生が年度当初から重点を置いた項目である。その成果で年々生徒の割合が上昇している。ただし、生徒の数値は高いが教職員・保護者の数値が低いので、地域や家庭でもあいさつをしっかりとる促しも必要かもしれない。

- ⑭ (生徒14)
(教職員14) 給食や日直・清掃などの当番活動をよくやっているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	256	134	18	4	412
教職員人数	11	20	4	0	35
保護者人数					0
生徒(%)	62.1%	32.5%	4.4%	1.0%	
教職員(%)	31.4%	57.1%	11.4%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	87.8%	65.4%	
令和4年度	88.1%	67.6%	
令和5年度	94.7%	88.6%	

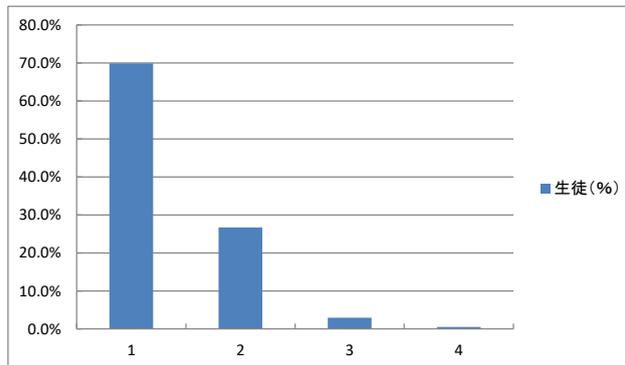


昨年より全体的な肯定的回答率が大きく上昇して、よい傾向である。今後も継続して生徒がそれぞれの役割を完遂できるように生徒が自主的な活動ができる工夫をしていく。

- ⑮ (生徒15) 服装等の規則や集団生活をする上でのルールを守っているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	288	110	12	2	412
教職員人数					0
保護者人数					0
生徒(%)	69.9%	26.7%	2.9%	0.5%	
教職員(%)					
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	95.9%		
令和4年度	95.6%		
令和5年度	96.6%		

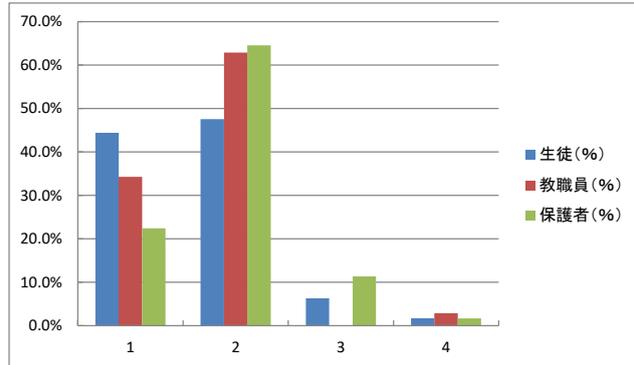


多くの生徒が、規範意識を持って学校生活を送っていると考えられる。今後も制服の改定や校則の見直しを進めていくが、引き続き丁寧な対応を行っていく必要がある。

- ⑩ (生徒16)
(教職員15) 決まりが守られ、秩序ある学校であるか。
(保護者8)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	183	196	26	7	412
教職員人数	12	22	0	1	35
保護者人数	67	193	34	5	299
生徒(%)	44.4%	47.6%	6.3%	1.7%	
教職員(%)	34.3%	62.9%	0.0%	2.9%	
保護者(%)	22.4%	64.5%	11.4%	1.7%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	88.0%	90.3%	81.0%
令和4年度	85.4%	97.1%	81.0%
令和5年度	92.0%	97.1%	87.0%

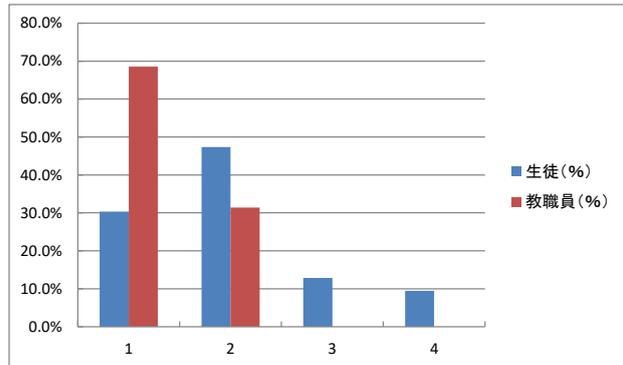


生徒と保護者の肯定的回答率が今回大きく上昇したのは近年の取り組みの成果と思われる。
気を抜くことなくこれからも、校則の見直しを含め生徒が過ごしやすい学校づくりを進めていく必要がある。

- ⑪ (生徒17) いじめのない学校であるか。
(教職員16) いじめの早期発見・早期対応に意識して指導をしているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	125	195	53	39	412
教職員人数	24	11	0	0	35
保護者人数					0
生徒(%)	30.3%	47.3%	12.9%	9.5%	
教職員(%)	68.6%	31.4%	0.0%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	77.8%	93.5%	
令和4年度	76.2%	97.1%	
令和5年度	77.7%	100.0%	

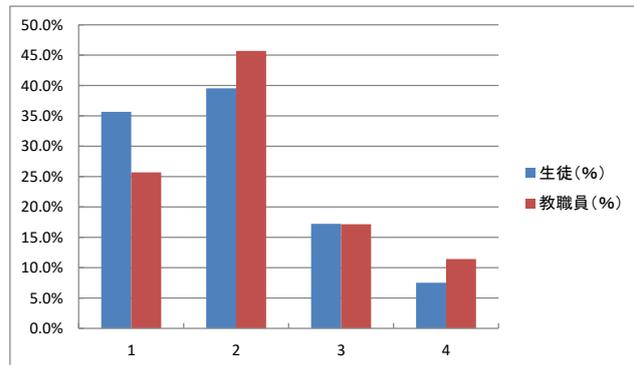


生徒の肯定的回答率が8割に届かないのは、教員側が気づいていないかもしくは相談できていない事象があると考えなければならない。
いじめは絶対に許さないという姿勢と、いじめはどの集団でも起きる可能性があるという観点から今後も生徒理解に努めなければならない。

- ⑫ (生徒18) どの先生も同じ方針で生徒指導をしているか。
(教職員17)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	147	163	71	31	412
教職員人数	9	16	6	4	35
保護者人数					0
生徒(%)	35.7%	39.6%	17.2%	7.5%	
教職員(%)	25.7%	45.7%	17.1%	11.4%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	59.7%	64.5%	
令和4年度	74.5%	73.5%	
令和5年度	75.2%	71.4%	

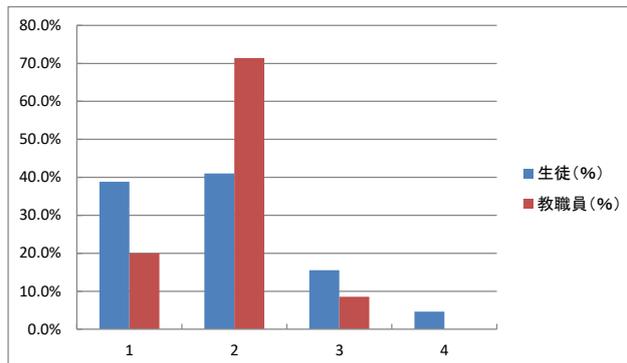


生徒の肯定的回答が年々上昇しているのは良い傾向である。しかし、本アンケートの中では低い数値で、教職員の肯定的回答率も下がっている。数値を真摯に受け止め、生徒指導共有ファイルや生徒指導の手引きが形骸化しないように、情報交換を密にして教職員の意識を向上させる必要がある。

- ⑱ (生徒19) 先生は生徒のことをよく理解しているか。
(教職員18)

回答	1	2	3	4
生徒人数	160	169	64	19
教職員人数	7	25	3	0
保護者人数				
生徒(%)	38.8%	41.0%	15.5%	4.6%
教職員(%)	20.0%	71.4%	8.6%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	83.7%	90.3%	
令和4年度	80.1%	88.2%	
令和5年度	79.9%	91.4%	

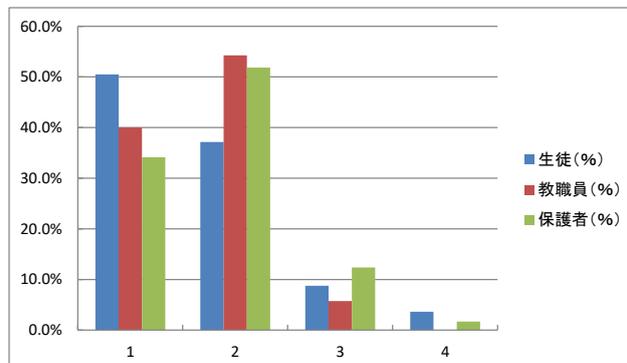


今年は今学年各フロアにて丁寧な見守りを行ったにもかかわらず、生徒の肯定的回答率が年々減少している。ふれあいタイムや見守りの対応の再検討が必要である。

- ⑳ (生徒20) 生徒や保護者の悩みを聞いたり相談に乗っているか。
(教職員19) 生徒や保護者の悩みを聞いたり相談に乗っているか。
(保護者9)

回答	1	2	3	4
生徒人数	208	153	36	15
教職員人数	14	19	2	0
保護者人数	102	155	37	5
生徒(%)	50.5%	37.1%	8.7%	3.6%
教職員(%)	40.0%	54.3%	5.7%	0.0%
保護者(%)	34.1%	51.8%	12.4%	1.7%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	87.8%	92.3%	75.8%
令和4年度	84.7%	88.2%	84.8%
令和5年度	87.6%	94.3%	86.0%

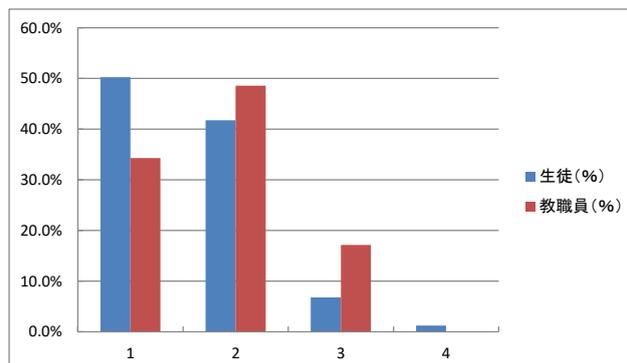


全体的に肯定的回答率が上昇して良い傾向である。特に保護者の数字が高いのは、コロナ禍で行う事が出来なかった家庭訪問が出来て、年度当初に保護者との関係が築けた事が良い要因であると思われる。今後も教職員の丁寧な対応を続ける必要がある。

- ㉑ (生徒21) 生徒会や委員会の活動は充実しているか。
(教職員20)

回答	1	2	3	4
生徒人数	207	172	28	5
教職員人数	12	17	6	0
保護者人数				
生徒(%)	50.2%	41.7%	6.8%	1.2%
教職員(%)	34.3%	48.6%	17.1%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	91.9%	90.3%	
令和4年度	88.3%	94.1%	
令和5年度	92.0%	82.9%	

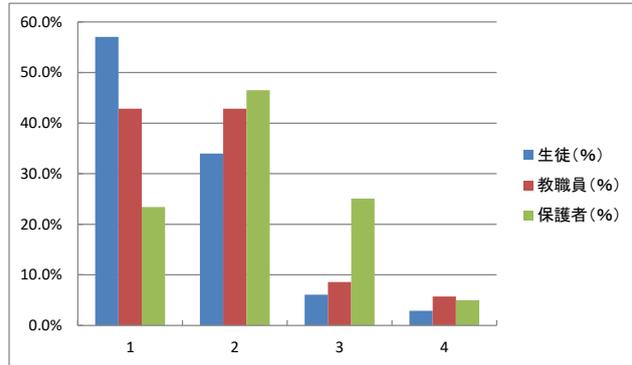


コロナ禍で活動が制限されてきた部分もあるが、ほとんどの活動を再開できた。また、地域での募金活動や窓付き封筒の回収など昨年にはなかった取り組みも行う事ができたのは生徒の肯定的回答率が上がった要因と思われる。ただし、教職員の数値が大きく減少している。教職員の負担の差が課題と思われるので、役割の検討が必要である。

- ⑳ (生徒22)
(教職員21) 部活動は充実しているか。
(保護者10)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	235	140	25	12	412
教職員人数	15	15	3	2	35
保護者人数	70	139	75	15	299
生徒(%)	57.0%	34.0%	6.1%	2.9%	
教職員(%)	42.9%	42.9%	8.6%	5.7%	
保護者(%)	23.4%	46.5%	25.1%	5.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	88.9%	93.5%	70.5%
令和4年度	89.3%	88.2%	70.5%
令和5年度	91.0%	85.7%	69.9%

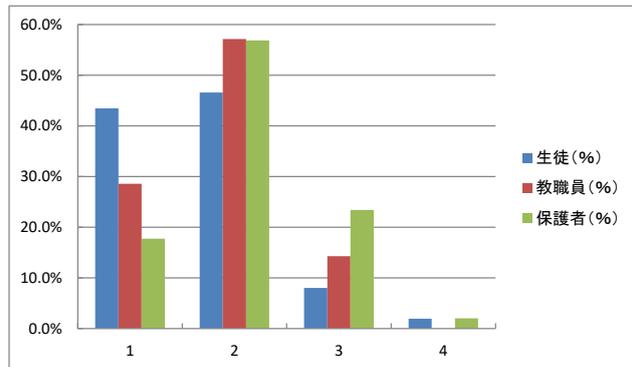


生徒の高い肯定的回答率に対して、保護者の回答率が低い。各部活動の積極的で丁寧な情報発信と、保護者への説明の場の設定が必要である。また、今後の部活動の地域移行に対する課題に対する対応と保護者への説明も必要である。

- ㉑ (生徒23)
(教職員22) 人としての生き方を考えさせたり、心を豊かに育てようとしているか。
(保護者11)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	179	192	33	8	412
教職員人数	10	20	5	0	35
保護者人数	53	170	70	6	299
生徒(%)	43.4%	46.6%	8.0%	1.9%	
教職員(%)	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	
保護者(%)	17.7%	56.9%	23.4%	2.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	88.7%	87.1%	62.1%
令和4年度	86.9%	88.2%	74.3%
令和5年度	90.0%	85.7%	74.6%

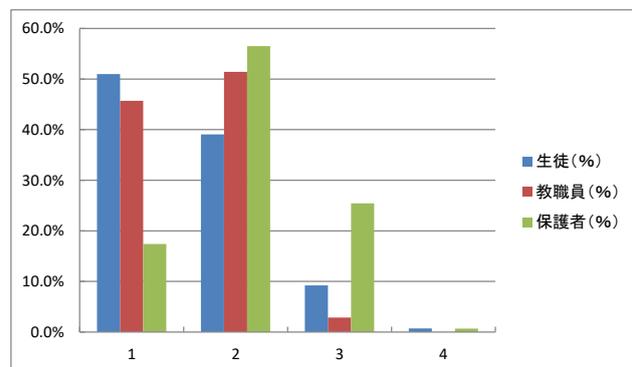


様々な活動が再開されて生徒の数値が上昇したと思われる。しかし教職員の数値が減少している。授業におけるICTの活用や、コロナ禍における学力保障を推進してきたが、あらゆる教育活動において目的を大切に再確認して、人格形成を意識した実践を心がける必要がある。

- ㉒ (生徒24)
(教職員23) 全教科領域で人権感覚をもって学習活動を進めているか。
(保護者12)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	210	161	38	3	412
教職員人数	16	18	1	0	35
保護者人数	52	169	76	2	299
生徒(%)	51.0%	39.1%	9.2%	0.7%	
教職員(%)	45.7%	51.4%	2.9%	0.0%	
保護者(%)	17.4%	56.5%	25.4%	0.7%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	93.0%	87.1%	77.1%
令和4年度	88.1%	94.1%	77.1%
令和5年度	90.0%	97.1%	73.9%

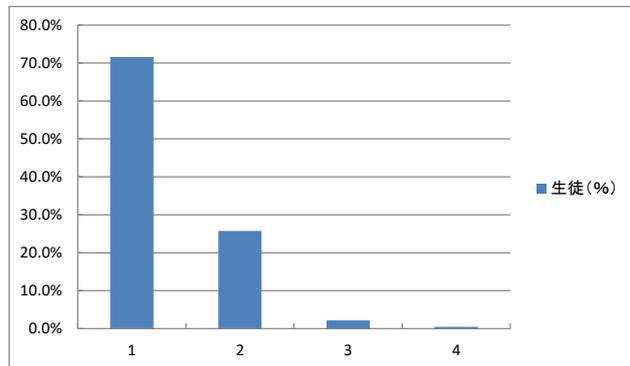


生徒・教職員の数値は上昇したが、保護者の数値は低く減少している。教職員の研鑽も行いつつ、学習活動の情報発信をもっと細やかに行う事が課題である。

②⑤ (生徒25) 人の役に立つ人間になりたいと思うか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	295	106	9	2
教職員人数				
保護者人数				
生徒(%)	71.6%	25.7%	2.2%	0.5%
教職員(%)				
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	95.0%		
令和4年度	95.1%		
令和5年度	97.3%		

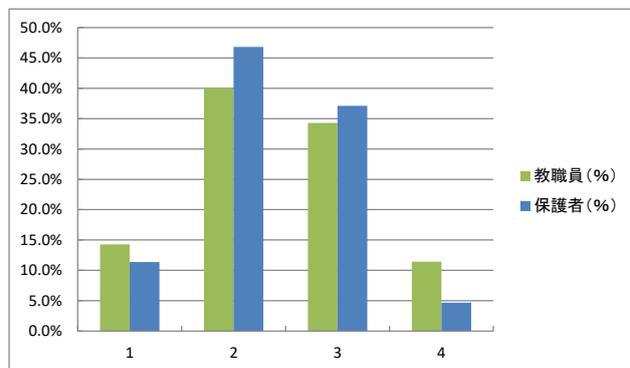


ほとんどの生徒の肯定的な回答を、学校生活の中で生徒自らが積極的に発信できる環境作りと、その内容をより具体的に実現できる教育活動を行う必要がある。

②⑥ (教職員24) 学校や地域のボランティア活動や行事への参加を積極的に促しているか。
(保護者13)

回答	1	2	3	4
生徒人数				
教職員人数	5	14	12	4
保護者人数	34	140	111	14
生徒(%)				
教職員(%)	14.3%	40.0%	34.3%	11.4%
保護者(%)	11.4%	46.8%	37.1%	4.7%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度		58.1%	57.1%
令和4年度		55.9%	52.4%
令和5年度		54.3%	58.2%

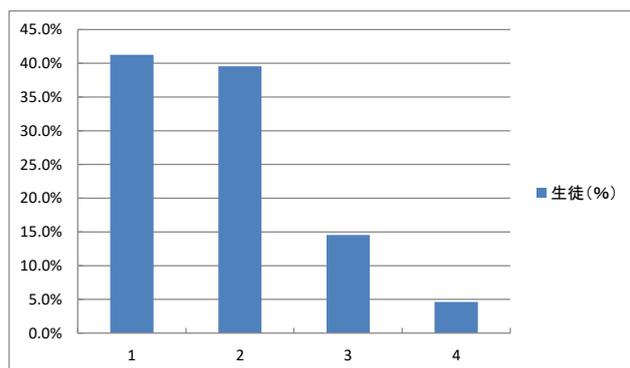


参加を促す内容をtetoruやホームページでは発信しているが、教職員や保護者の数値は低く届いていないのが課題である。本アンケートの中でも最も低い数値であるので、発信方法は今後の課題である。

②⑦ (生徒26) 自分にはよいところがあると思いませんか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	170	163	60	19
教職員人数				
保護者人数				
生徒(%)	41.3%	39.6%	14.6%	4.6%
教職員(%)				
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	69.9%		
令和4年度	70.4%		
令和5年度	80.8%		

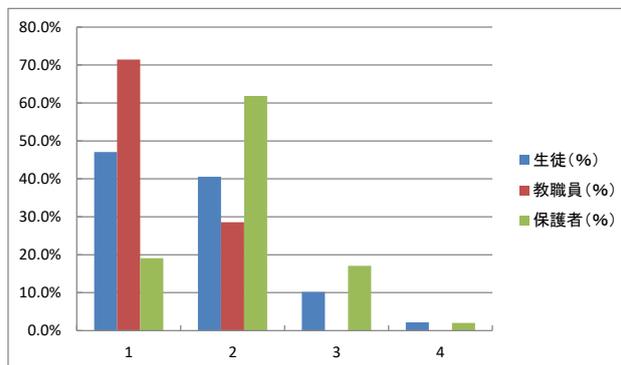


今年には大幅に数値が上昇した、教育活動の成果と思われる。ただし、今後も自己肯定感を高める活動を推進していきながらも、残りの2割の否定的回答の生徒の存在をしっかりと認識して、絶え間ない情報収集に努めなくてはならない。

- ⑳ (生徒27)
 (教職員25) 生徒のよいところを認めようとしているか。
 (保護者14)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	194	167	42	9	412
教職員人数	25	10	0	0	35
保護者人数	57	185	51	6	299
生徒(%)	47.1%	40.5%	10.2%	2.2%	
教職員(%)	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	
保護者(%)	19.1%	61.9%	17.1%	2.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和3年度	95.0%	58.1%	52.4%
令和4年度	85.4%	97.1%	78.1%
令和5年度	87.6%	100.0%	80.9%



全体的に数値が上昇した。設問⑨同様に教師が否定的回答をする事はないので設問に教職員を入れるかどうかは来年度の検討事項である。また、教職員の2割が回答(2-ややそう思う)としているのが課題である。